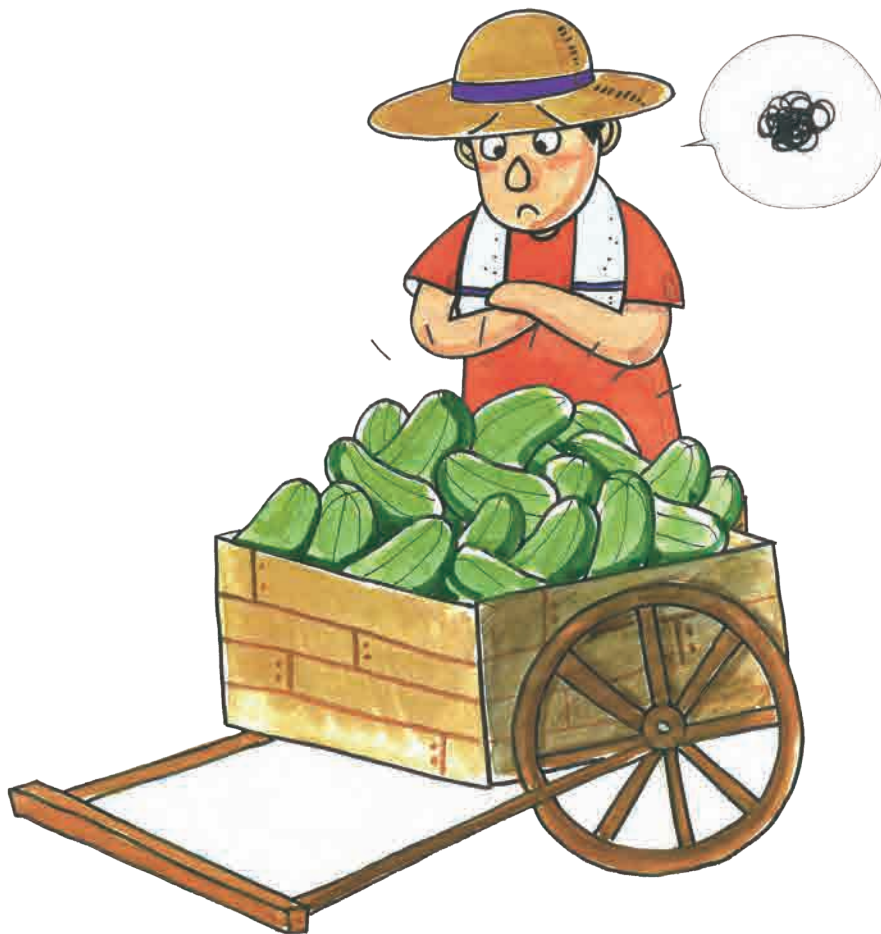


目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (草木編)
- 3 童謡 蛍の光
- 4 早口ことば 瓜売りが瓜売りに来て、瓜売れず瓜売り残る
- 5 今月の詩 ちょうちょう 北原白秋
- 6 うた 合成のうた
- 7 ことわざ 灯台下暗し 渡りに船 虎の威をかる狐
得を取るより名を取れ どんぐりの背くらべ
- 8 うた 単位のうた
- 9 俳句 河東碧梧桐 松尾芭蕉 小林一茶
- 10 かぞえうた 5本 10本 15本 (ろうそく)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた ちゃつぽ
- 13 今月のうた 22の色
- 14 四字熟語 艱難辛苦 順風満帆 油断大敵
- 15 イメージトレーニング クロス君 (第12話 好きな時代へ)
(イメージしてみましよう)
- 16 おはなし しあわせの王子
- 17 漢詩 帰雁
- 18 百人一首 清原元輔 入道前太政大臣 後徳大寺左大臣
後京極摂政前太政大臣
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

早口ことば

うり 瓜 売 り が 瓜 売 り に 来 て、
うり 瓜 売 れ ず 瓜 売 り の こ 残 る



ちょうちょう

きたはらはくしゅう
北原白秋

ちょうちょう、ちょうちょう、
からまつ^{やま}山は
まだ日^ひが寒^{さむ}い。
ちらちら^と飛べよ。

ちょうちょう、ちょうちょう、
三^{さん}月^{がつ}四^し月^{がつ}、
霧^{きり}雲^{くも}はやい。
濡^ぬれ濡^ぬれ^と飛べよ。

ちょうちょう、ちょうちょう、
からまつ^{ばら}原は、
もう芽^めが萌^もえる。
木^こぶかく^と飛べよ。

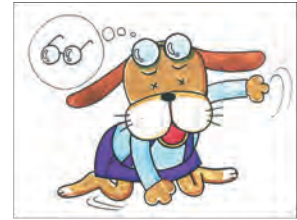
ちょうちょう、ちょうちょう、
ちんころぐさも
林^{はやし}に赤^{あか}い。
大^{おお}きく^と飛べよ。



ことわざ

とうだいもとくら 灯台下暗し

燭台のすぐ下は暗い。身近なことはかえってわからず、気がつかないものである。



わた ふね 渡りに船

何かをしようとしているときに、うまく都合のよいことが起こること。



とら い きつね 虎の威をかる狐

有力者の力に頼っていばるつまらない人のこと。



とく と な と 得を取るより名を取れ

利益よりも名誉を大切にせよ。



どんぐりの背くらべ

どれもこれも平凡で、特に良いものがないこと。



俳句

あか つばき しろ つばき お
赤い椿 白い椿と 落ちにけり

かわひがしへき ご どう
河東碧梧桐



よく ^み見れば なず ^{はな}な ^さ花咲く かき ^ね垣根かな

まつ お ばし ^{ょう}
松尾芭蕉



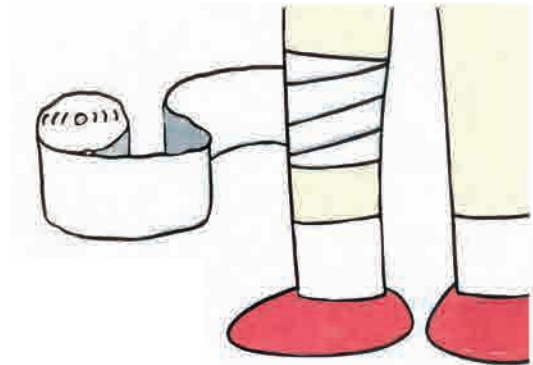
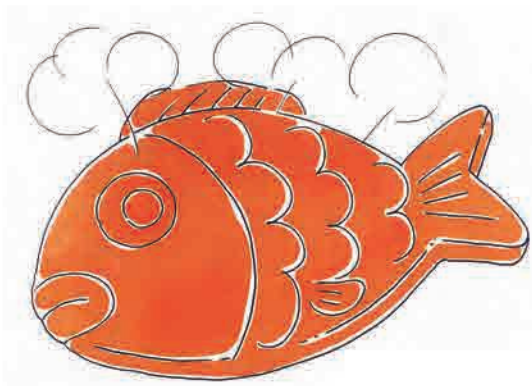
あれ ^{うめ}梅と いう ^ま間に ^ま曲がる こ ^ぶ舟 ^ねかな

こ ^ばやし ^いっ ^き
小林一茶



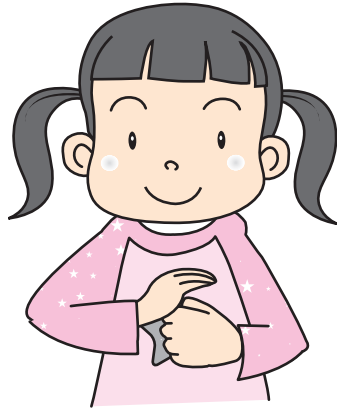
なぜなぜ

- 1 たいはたいでも、おなかいっぱいあんこをたべているたいはなあに？
- 2 たいはたいでも、けがをしたときにでてくるたいはなあに？
- 3 たいはたいでも、おでこにいるたいはなあに？
- 4 たいはたいでも、お父さんの^{とう}首^{くび}によくいるたいはなあに？



《ちゃつぼ》

① ちゃ



ひだり^て手をグー。
その上^{うえ}にみぎ^て手をのせる。

② ちゃ



みぎ^て手^{した}を下にする。

③ つ



みぎ^て手をグー。
その上^{うえ}にひだり^て手をのせる。

④ ぼ



ひだり^て手^{した}を下にする。

⑤ ちゃつぼ

ちゃつぼにや
ふたがない
そこをとって
ふたにしよう

うたにあわせて、
①～④をくりかえす。

《22の色》

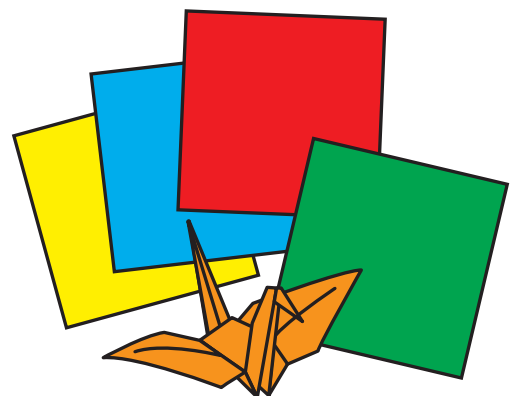
にほんの色は 自然の色

緋色は 夕日の赤い色
みずいろ すんだ水の色
あいいろ 日本にほんの青い色
すみいろ 深い夜よるの色
大地だいちの色は おうどいろ

森もりの樹きの色 ふうかみどり
鳥とりの羽はねの色 ときいろ うぐいす
毛皮けがわの色は きつねいろ ねずみいろ

春はるをよぶ色 わかくさ ぼたん
たんぽぽ やまぶき ふじ すみれ
輝かがやく夏なつは なすこん ももいろ べにいろ しゅいろ

冬ふゆにあざやか あさぎ だいだい
にほんの色は うつくしい



かんなんしんく
艱難辛苦

つらいことにあって悩み苦しむこと。



じゅんぷうまんぱん
順風満帆

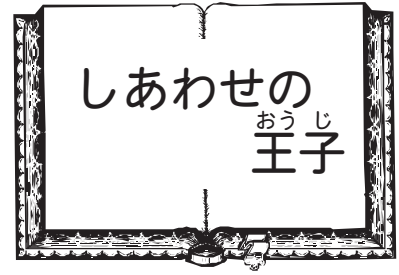
ものごとが順調にはかどること。



ゆだんたいてき
油断大敵

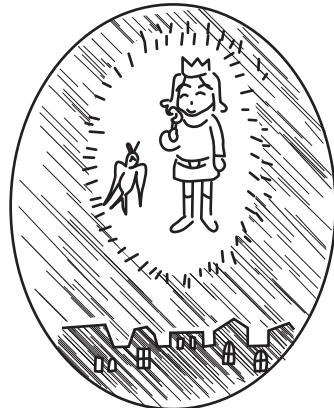
油断は失敗や災害の原因となることが多いので大きな敵である。





「しあわせの王子」は、自分の美しい体を犠牲にして、
まず 貧しい町の人々を助けた王子の銅像のお話です。
お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 王子は、病気の男の子のお母さんに、何をあげましたか。
- 2 誰が運んでいったのですか。
- 3 サファイアの目は、誰と誰にあげたのですか。
- 4 ツバメはどうして、南の国に帰らなかったのですか。
- 5 あなたは、この話を聞いてどう思いましたか。



帰き

雁がん

銭せん

起き

蕭湘しょうしょうより何事なにごとぞ等間とうかんに回かえる
 水碧みずあおく沙明すなあきらかに両岸りょうがんの苔こけ
 二十五にじゅうご絃げん夜月やげつに弾だんずれば
 清怨せいえんに勝たえずして却かえって飛来ひらいするならん

百人一首

契ちぎりきな

かたみに袖そでを
末すえの松まつ山やま

波なみ越こさじとは

(清原元輔きよはらのもとすけ)

花はなさそふ

嵐あらしの庭にわの雪ゆきならで

ふりゆくものは わが身みなりけり

(入道前太政大臣にゅうどうさきのだいじょうだいじん)

ほととぎす

鳴なきつる方かたを
ただ有あり明あけの

ながむれば
月つきぞ残のこれる

(後徳大寺左大臣ごとくだいじのさだいじん)

きりぎりす

鳴なくや霜しも夜の

衣ころも片かた敷しき
ひとりかも寝ねむ

(後京極摂政前太政大臣ごきょうごくせつしょうさきのだいじょうだいじん)



入道前太政大臣